

情報名:ミラノ 2K・M ソリューションシステムによる塗装仕様

淡色系メタリックの補修塗装で、メタルムラ・ボカシ塗装時にボカシ際が黒くなる等の問題を解決する塗装仕様です。

このような問題の解決策として、下記の仕様書を参照下さい。

一方、シルバーメタリックの中で透けている塗色が多く、調色作業・補修塗装が難しくなっています。

トラブルの少ない補修塗装をするため、塗装工程を再度見直してみましょう。

◆ 各塗料の調合

①アンダーコンディショナーを使用する場合の調合

アンダーコンディショナー	100	※ 静電気の防止・ミストのナジミ改善に使います
リアクター	130	※ リアクターの希釈が少ないと、メタル戻しムラが出易くなります。
	230	

②ハイグラデーションをムラ取り・ボカシ時に使用する場合の調合

色決め塗料	100	※ 色決め塗装までは従来通り塗装して頂き、ムラ消し・ボカシの時に色決めて使った塗料中に 30%混合して、ムラ消し作業とあわせてボカシ塗装する。
ハイグラデーション	30	
	130	

③ハイグラデーションを調色時に混合して使う場合の調合

計量調色塗料	100	※ 計量調色時に、ハイグラデーションを 30～50%混合して、微調色してから塗装して下さい。
ハイグラデーション	30～50	
	130～150	

・リアクターは、130%希釈して下さい。

(0714・0711 を中心に使うシルバー系	50%)
(その他のメタ原色	30%)

④ハイカラーを使った下塗り色の調合

調色塗料	100	※ トマリの悪いシルバー系塗色の場合、まずハイカラー調合品で下地を均一な色相に隠蔽して下さい
ハイカラー	30	
リアクター	130	※ 次に本来の上塗り色を塗装して下さい。
	260	※ <u>ハイカラー調合品を塗装する場合、肌を作らないように、ミストのガサツキがないように塗装して下さい。</u>

⑤クリヤーの調合

※ 各クリヤーの仕様書に準ずる。

◆ ブロック塗装 No1 標準工程

- ※ 交換パーツを含む塗装の場合は、調色時作成した塗板で色相を確認しながら塗装して下さい。
- ※ プラサフの上に直接上塗り色を塗る場合は、まずプラサフの上を 1~2 回塗り 3 分程乾燥させてから、全体を塗装して下さい。
- ※ 塗り重ね時は、塗装間隔を充分取り塗膜中の溶剤を蒸発させながら塗り重ねて下さい。

①捨て吹き塗装

- 塗装面全体を、薄く均一な塗膜に仕上がるように塗装する。
(塗膜のハジキ確認・次に塗る塗膜のタレ防止が目的)

②色決め塗装

- 塗装面全体に、ツヤがでるように 2~3 回程塗装して下さい。
メタリックの塗装は、塗装間隔を充分取りながら塗り重ねて下さい。
- この工程での塗り込みが少ないと、次のムラ消し工程のミストのナジミが悪くなり、吹きムラ発生の原因となります。

③ムラ消し塗装

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より 10cm 程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねで 1~2 回塗装して下さい。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3 分ツヤ程度になるように仕上げて下さい。
- この工程でメタルムラが消えない場合は、色決め工程に戻って下さい。

④クリアー塗装

- メタリック塗装からクリアー塗装までのセッティングは、5~10 分間置いて下さい。
- クリアーの塗装は、各クリアーのマニュアルを参照下さい。

⑤乾燥

- 各クリアーのマニュアルを参照下さい。

◆ ブロック塗装 No2 ムラ消し工程で調合①のハイグラデーションをブレンド

- ※ 大面積の塗装で、ミストのナジミが悪くメタルムラが出易い場合は、ムラ消し工程において色決めに使った塗料に、ハイグラデーションを約 30%混合してムラ消し塗装を行う。
- ※ 同工程の場合色相が若干変わることがあります。
色相の確認をして下さい。

①捨て吹き塗装

- 塗装面全体を、薄く均一な塗膜に仕上がるように塗装する。
(塗膜のハジキ確認・次に塗る塗膜のタレ防止が目的)

②色決め塗装

- 塗装面全体に、ツヤがでるように2~3回程塗装して下さい。
メタリックの塗装は、塗装間隔を充分取りながら塗り重ねて下さい。
- この工程での塗り込みが少ないと、次のムラ消し工程のミストのナジミが悪くなり、吹きムラ発生の原因となります。

③ムラ消し塗装

- ムラ消し工程で使う塗料は、色決め時に使った塗料へ、ハイグラデーションを30%混合した塗料をご使用下さい。
- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねで1~2回塗装して下さい。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げして下さい。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5~10分間置いて下さい。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

⑤乾燥

- 各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

◆ ブロック塗装 No3 塗色中にハイグラデーションをブレンド

※ メタリック塗装でメタルムラの発生が激しく、メタルムラが消えない場合は、計量調色の時点でハイグラデーションを30～50%(外分比)混合して調色して下さい。

(参考 0714・0711 を中心に使っている塗色 50%)

(その他のメタリック原色が中心の塗色 30%)

※ 同塗装仕様は、シルバー系・ベージュ系を中心とした淡色系塗色に該当します。
又、トマリが若干悪くなります。

①捨て吹き塗装

- 塗装する塗料は、最初からハイグラデーションを30～50%混合した塗料を使って下さい。
- 塗装面全体を、薄く均一な塗膜に仕上がるように塗装する。
(塗膜のハジキ確認・次に塗る塗膜のタレ防止が目的)

②色決め塗装

- 塗装面全体に、ツヤがでるように2～3回程塗装して下さい。
特にこの仕様でのメタリックの塗装は、塗装間隔を充分取りながら塗り重ねて下さい。
- この工程での塗り込みが少ないと、次のムラ消し工程のミストのナジミが悪くなり、吹きムラ発生の原因となります。
- 同工程の場合、トマリが若干悪くなるためご注意下さい。

③ムラ消し塗装

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねで1～2回塗装して下さい。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げして下さい。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5～10分間置いて下さい。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

⑤乾燥

各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

◆ ブロック塗装 No4 ハイカラー調合品を使つての塗装

- ※ 0715・0716・0725・0726 を中心に使つた淡色系塗色は、トマリが悪いです。
被塗物にプラサフ・パテ等が塗られている上なら塗装する場合、トマリの悪い塗色ではなかなか隠蔽できません。
先ず、ハイカラー調合品で被塗物を均一な色に塗装してから、本来の塗色を塗装して下さい。
- ※ ハイカラーは、調色塗料と 30:100 で混合したものをお使い下さい。
- ※ ハイカラー調合品塗装後、5～10 分程セッティングしてから、メタリックを塗装して下さい。
- ※ ハイカラー調色品とハイグラデーションを組み合わせると、塗装作業はさらに UP します。

①ハイカラー調合品の塗装

- ハイカラー：調色塗料：リアクター=100：30：130 調合塗料を、塗装面全体に肌を作らないように、被塗物が隠蔽するように塗装する。
- ハイカラー調色品は、ガサツキのないように塗装して下さい。
- ハイカラー調色品を塗装したら、5～10 分程セッティング時間を取ってから、上塗り塗料を塗装して下さい。

②捨て吹き塗装

- 塗装面全体を、薄く均一な塗膜に仕上がるように塗装する。
(塗膜のハジキ確認・次に塗る塗膜のタレ防止が目的)

③色決め塗装

- 塗装面全体に、ツヤがでるように2～3 回程塗装して下さい。
メタリックの塗装では、塗装間隔を充分取りながら塗り重ねて下さい。
- この工程での塗り込みが少ないと、次のムラ消し工程のミストのナジミが悪くなり、吹きムラ発生の原因となります。

④ムラ消し塗装

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より 10cm 程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねで 1～2 回塗装して下さい。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3 分ツヤ程度になるように仕上げて下さい。

⑤クリアー塗装

- メタリック塗装からクリアー塗装までのセッティングは、5～10 分間置いて下さい。
- クリアーの塗装は、各クリアーのマニュアルを参照下さい。

⑤乾燥

- 各クリアーのマニュアルを参照下さい。

◆ ボカシ塗装 No1 標準工程

※ アンダークリヤーの必要性

淡色系メタリックは、濃色系メタに比べて乾燥が速いため、ボカシ際の乾燥がより速くなり、ボカシ際にガサツキが発生して黒ずみという現象が生じます。

この現象を防止するのがアンダークリヤーです。

メタリックを塗る前にアンダークリヤーを塗装し、その上からメタリックを塗装すると、ボカシ際の乾燥が遅くなりミストのナジミ・アルミの並びが良くなるので、黒ずみが改善します。

①アンダークリヤーの塗装

- アンダークリヤーを、メタリックのボカシ予定部に2～3回程塗装する。
アンダークリヤーは、全体にツヤが出るように塗装して下さい。

②メタリックの色決め塗装

- 1回目は薄く捨て吹き程度塗って2回目からは5～7部ツヤ程度になるように塗り重ねて下地を隠蔽して下さい。
- 一度に厚塗りせずに塗装間隔を充分(指触乾燥程度)取って、塗り重ねて下さい。
(塗装間隔が短いと、吹きムラ・戻しムラの原因となります。)
- メタリックを塗装する時は、一回目より二回目・二回目より三回目と少しずつ塗り広げて下さい。
(ボカシ際を同じ所で行うと、ミストがガサツキやすく際の黒ずみにつながります。)
- ボカシ際は、少しずつ薄くなるように塗装して下さい。
(このテクニックが、ボカシ際が目立つかどうかのポイントとなります。)

③ムラ消し及びボカシ塗装

<アンダークリヤーの塗装>

- メタリックのボカシ部を中心に、再度アンダークリヤーを塗装します。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げして下さい。
(この時のアンダークリヤーは、3～5部ツヤに仕上がるように1～2回軽く塗装します。)
(塗りすぎると戻しムラになり易く、塗り足りないと効果が弱く吹きムラになりやすいです)

<ムラ消し塗装>

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より5～10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねで1～2回塗装して下さい。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げして下さい。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5～10分間置いて下さい。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

⑤乾燥

各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

◆ ボカシ塗装 No2 ムラ消し工程でハイグラデーションをブレンド

- ※ ボカシ塗装において、トマリを落とさずにメタルムラ・際の黒ずみを改善したい場合は、ムラ消し工程において、色決め工程で使った調色塗料に調合①のハイグラデーションを約 30%混合し、ムラ消し塗装を行う。

①アンダークリヤーの塗装

- 調合①のハイグラデーションを、メタリックのボカシ予定部を 2~3 回程塗装する。
- 調合①のハイグラデーションは、全体にツヤが出るように塗装して下さい。

②メタリックの色決め塗装

- 1 回目は薄く捨て吹き程度塗って 2 回目からは 5~7 部ツヤ程度になるように塗り重ねて下地を隠蔽して下さい。
- 一度に厚塗りせずに 塗装間隔を充分(指触乾燥程度)取って、塗り重ねて下さい。
(塗装間隔が短いと、吹きムラ・戻しムラの原因となります。)
- メタリックを塗装する時は、一回目より二回目・二回目より三回目とり 少しずつ塗り広げて下さい。
(ボカシ際を同じ所で行うミストがガサツキやすく際の黒ずみに繋がります。)
- ボカシ際は、少しずつ薄くなるように塗装して下さい。
(このテクニックが、ボカシ際が目立つかどうかのポイントとなります。)

③ムラ消し及びボカシ塗装

<アンダークリヤーの塗装> 必要に応じて実施

- メタリックのボカシ部を中心に、再度調合①のアンダーコンディショナーを塗装します。
(この時のアンダークリヤーは、3~5 部ツヤに仕上るよう 1~2 回軽く塗装。)
(塗りすぎると戻しムラになり易く、塗り足りない効果が弱く吹きムラになりやすいです)

<ムラ消し塗装>

- ムラ消し工程で使う塗料は、色決め工程で使った塗料にハイグラデーションを約 30%混合した塗料を使う。
ハイグラデーションを混合すると、スカシが若干黒くなりますが、ボカシ塗装では判断出来ない程度の変化に留まります。
- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より 5~10cm 程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねて 1~2 回塗装して下さい。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3 分ツヤ程度になるように仕上げて下さい。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5~10 分間置いて下さい。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

⑤乾燥

各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

◆ ボカシ塗装 No3 アンダークリヤーを使わない塗装工程

※ シルバー系メタリックは、トマリと塗装作業性が相反する関係にあり、両方の性能を同時に改善するのは難しい状況にあります。

アンダークリヤーを使わずにボカシ塗装をする場合は、トマリを落としてやる必要があります。

計量調色時に、ハイグラデーションを 30～50%混合すると、アンダークリヤーなしでボカシ塗装が可能となります。

※ 計量調色時に、ハイグラデーションを 30～50%混合してから、微調色して下さい。

(参考 0714・0711 を中心に使っている塗色 50%)

(その他のメタリック原色が中心の塗色 30%)

※ トマリが悪くなるのでご注意下さい。

①調色作業

- 上塗り塗色を計量調色して、使用メタリック原色に応じてハイグラデーションを 30～50%の割合で混合する。
上記作業後、微調整を行う。

②メタリックの色決め塗装

- 1回目は薄く捨て吹き程度塗って2回目からは5～7部ツヤ程度になるように塗り重ねて下地を隠蔽して下さい。
- 一度に厚塗りせずに塗装間隔を充分(指触乾燥程度)取って、塗り重ねて下さい。
(塗装間隔が短いと、吹きムラ・戻しムラの原因となります。)
- メタリックを塗装する時は、一回目より二回目・二回目より三回目とり少しずつ塗り広げて下さい。
(ボカシ際を同じ所で行うミストがガサツキやすく際の黒ずみにつながります。)
- ボカシ際は、少しずつ薄くなるように塗装して下さい。
(このテクニックが、ボカシ際が目立つかどうかのポイントとなります。)

③ムラ消し塗装

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より5～10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねて1～2回塗装して下さい。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げして下さい。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5～10分間置いて下さい。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

⑤乾燥

各クリヤーのマニュアルを参照下さい。

◆ ボカシ塗装 No4 ハイカラー使用による塗装工程

- ※ トマリの悪い塗色(淡色系塗色)をボカシ塗装する場合、下塗り色で下地を隠蔽してから上塗り色を塗らないと、隠蔽しない際のガサツキ・黒ずみ発生等の問題が生じます。
このような場合、ハイカラーを使いボカシ塗装すると、簡単にボカシ塗装をする事が可能となります。
- ※ ハイカラーは、上塗り色 : ハイカラー : リアクター = 100 : 30 : 130 で調合します。
- ※ ハイカラー調色品とハイグラデーションを組み合わせると、塗装作業はさらにUPします。

①下塗り色の調色

- 上塗り色 : ハイカラー : リアクター = 100 : 30 : 130%

②下塗り色の塗装

- 上記ハイカラーでパテ・プラサフ上を塗装して隠蔽する。
ミストにガサツキのないように、肌が出ないように塗装する。
- ハイカラー塗装後、5分程度セッティングしてから上塗りして下さい。

③アンダークリヤーの塗装

- 調合①のハイグラデーションを、メタリックのボカシ予定部を中心に2~3回程塗装する。

④メタリックの色決め塗装

- 1回目は薄く捨て吹きし、2回目からは5~7部ツヤ程度になるように塗り重ねて、下地を隠蔽して下さい。
- メタリックは、一度に厚塗りせずに塗装間隔を充分(指触乾燥程度)取って、塗り重ねて下さい。
- メタリックを塗装する時は、一回目より二回目・二回目より三回目と少しずつ広げながら塗装して下さい。
- ボカシ際は、出来るだけ薄くなるように塗装して下さい。

⑤ムラ消し及びボカシ塗装

<アンダークリヤーの塗装>

- メタリックのボカシ部を中心に、再度調合①のアンダーコンディショナーを塗装します。
(調合①のハイグラデーションは、3~5部ツヤに仕上がるように1~2回軽く塗装します。)

<ムラ消し塗装>

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より5~10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねて1~2回塗装して下さい。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げて下さい。

⑥クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5~10分間置いて下さい。

⑦乾燥

クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルを参照下さい。